

今後の環境モニタリング調査内容

令和4年9月

沖縄県土木建築部八重山土木事務所

1 今後のモニタリング調査内容

調査項目	調査内容	調査地点	調査時期・回数
1.水質調査	①現場測定項目（水深、水温、水色、臭気、透明度） ②分析項目（SS、濁度） 降雨時はSSのみ	浦内橋の上流・ 下流の2地点、 降雨時は橋中央 部の1地点	工事中の平常時 に年4回、降雨時 に適宜実施
2.陸上植物調査			
希少植物種の 移植	改変区域内に生育する希少な植物種の移植を行 う。	改変区域内	工事前に1回
希少植物の移植後 の生育状況調査	移植を行った個体の移植後の生育状況調査を行 う。 移植後の生育状況が悪化、不良となった場合は、 専門家の指導・助言を受けて、再移植及び移植先の 検討を行う。	移植先	移植後1年間は月 1回。その後は、 年4～6回。移植 後3年程度
浦内橋周辺 植生状況調査	①ヒルギ類の分布状況の把握 ヒルギ類の毎木調査を行い、ヒルギ類の生育状 況、個体数等の増減を把握し、工事による生育状況 の変化が生じていないかを確認する。	工事予定箇所周 辺に設置した方 形枠 (QR5～12)	工事中 年2回(春・秋)
	②希少植物の生育状況の把握 改変区域周辺に生育する希少植物(ヒルギモドキ、 ヒルギダマシ)の生育状況調査を行い、工事による生 育状況の変化が生じていないかを確認する。	改変区域周辺	
	③外来植物の分布状況の把握 改変区域周辺を踏査し、生態系への影響が懸念さ れる外来植物の分布状況の把握及びその駆除を行 う。	改変区域及びそ の周辺	工事中年4回 なお、外来植物 の分布状況に応 じて追加する

※ 表中の水色網掛けは、工事着手前から工事中も継続する調査項目を示す。

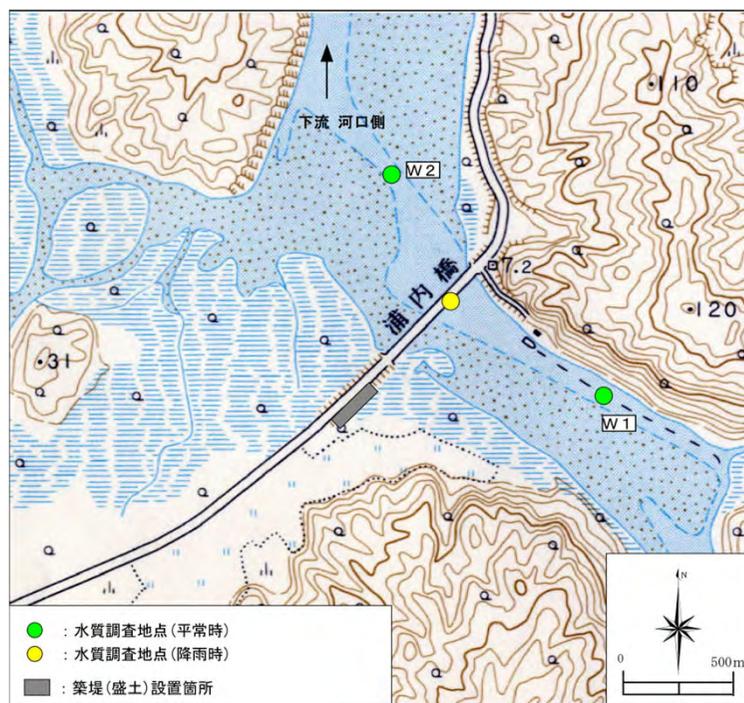
調査項目	調査内容	調査地点	調査時期・回数
3.陸上動物調査			
希少動物種の移動	改変区域に生息する希少な動物種の捕獲・移動を行う。	両河岸の橋台付近	工事前に1回
鳥類繁殖・生息状況調査	①任意調査 カンムリワシを含む希少な鳥類の繁殖及び生息状況の調査を行って、架替工事による影響を確認する。	工事現場付近は定点調査（1定点）、左岸側、右岸側では任意踏査（広範囲に探索）	つがい形成期・繁殖期（3～6月毎月1回）、巣外育雛期（9、10月各1回）
	②ルートセンサス カンムリワシ、その他の鳥類を対象に、定量的なデータを取得する。	カンムリワシ 県道215号線上の約4km	任意調査の各期間中の毎朝夕
		その他鳥類 浦内橋端から両岸約1km	任意調査の各期間中の朝・昼・夕・夜に各1回
	③定点調査 干潟・マングローブ鳥類を対象に、定量的なデータを取得する	浦内橋上の1定点より半径200m	任意調査の各期間中の満潮時・干潮時に各1回
イリオモテヤマネコの生息状況調査	①西表島での生息状況 既存資料調査により、西表島全域における生息状況、環境保全対策の実施状況を整理する。	—	工事前に1回
	②浦内橋周辺での生息状況 自動撮影カメラ（センサー付き）を設置し、生息状況を把握する。	浦内橋の左岸側に2箇所、右岸側に1箇所	自動撮影カメラの設置期間は連続測定（1年間）を想定

※ 表中の黄色網掛けは、工事着手前に実施した調査項目、水色網掛けは工事着手前から工事中も継続する調査項目を示す。

調査項目	調査内容	調査地点	調査時期・回数
3.陸上動物調査			
ロードキル調査	①発生状況調査 イリオモテヤマネコを含む貴重生物のロードキル状況の確認を目視にて行う。	資機材運搬ルート (県道215号線の仲間(大原)港から白浜港までの区間)	工事中に年4回 (資機材搬入時)
	②発生防止啓発 作成済の発生防止啓発資料を随時更新し、施工業者に対して啓発を行う。	-	工事前に1回(施工業者が変わるたびに実施)
外来生物調査	①侵入状況及び駆除 建設資機材等とともに、特定外来種が西表島に侵入していないか、目視確認及びその駆除を行う。	資機材の搬入箇所(白浜港、上原港、船浦港、仲間(大原)港を想定)及び資材置き場	工事中年4回 資機材の搬入時に施工業者により適宜実施
4.水生生物調査			
水生生物の移動	築堤(盛土)区間及び杭打設箇所に生息する貴重な水生生物の捕獲・移動を行う。杭打設箇所付近では潜水作業による捕獲、水深50cm以浅ではタモ網による捕獲を行う。	左岸側の築堤(盛土)区間及び杭打設箇所	工事前に1回
水生生物の生息状況調査	①魚類、貝類、甲殻類 捕獲法(タモ網、投網、掘り取り)、目視観察法及びトラップ法(カニカゴ)により調査を行い、水生生物相を把握するとともに、工事により、出現種、確認数の変化が生じていないかを確認する。合わせて一定範囲におけるニセシラヌイハゼの生息数をタモ網による捕獲にて把握する。	現況把握と同地点の3地点	夏季、冬季の2回 工事中から工事後3年程度

※ 表中の水色網掛けは、工事着手前から工事中も継続する調査項目を示す。

調査項目	調査内容	調査地点	調査時期・回数
4.水生生物調査			
浦内橋周辺 環境調査	①空撮による滞筋等の把握 ドローンによる空撮を行い、仮設橋設置等の工事により浦内橋周辺の滞筋の状況、土砂の堆積状況に変化が生じていないかを確認する。	現況と同範囲	水生生物調査時の2回及び大雨後2回程度
	②浦内橋周辺の水深 仮設橋設置等の工事により、周辺の水深に変化が生じていないかを確認する。	浦内橋上流側に1側線、下流側に2側線の3測線	
	③底質 粒度組成調査を行い、底質に変化が生じていないかを確認する。	②の各測線上の代表1地点の計3地点	



水質調査のモニタリング地点

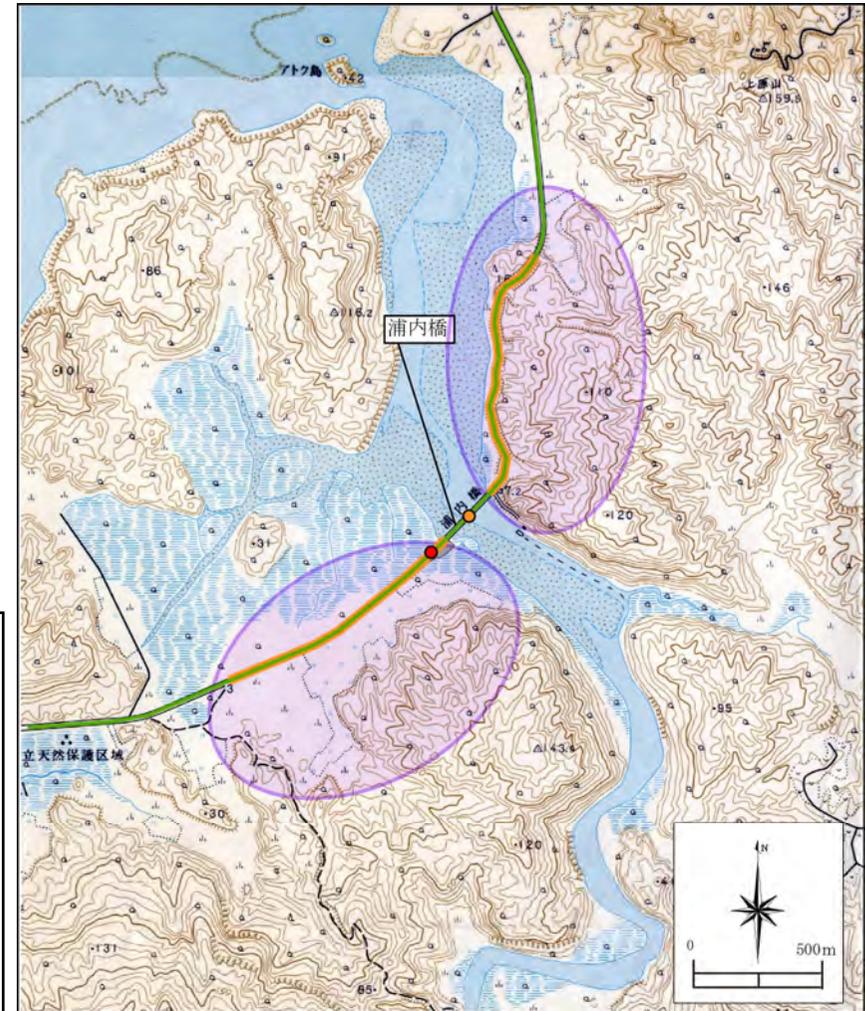
**希少種保護の観点により、
調査地は表示していません。**

陸上植物のモニタリング調査地点(1)

希少種保護の観点により、
移植地は表示していません。

陸上植物のモニタリング調査地点(2)

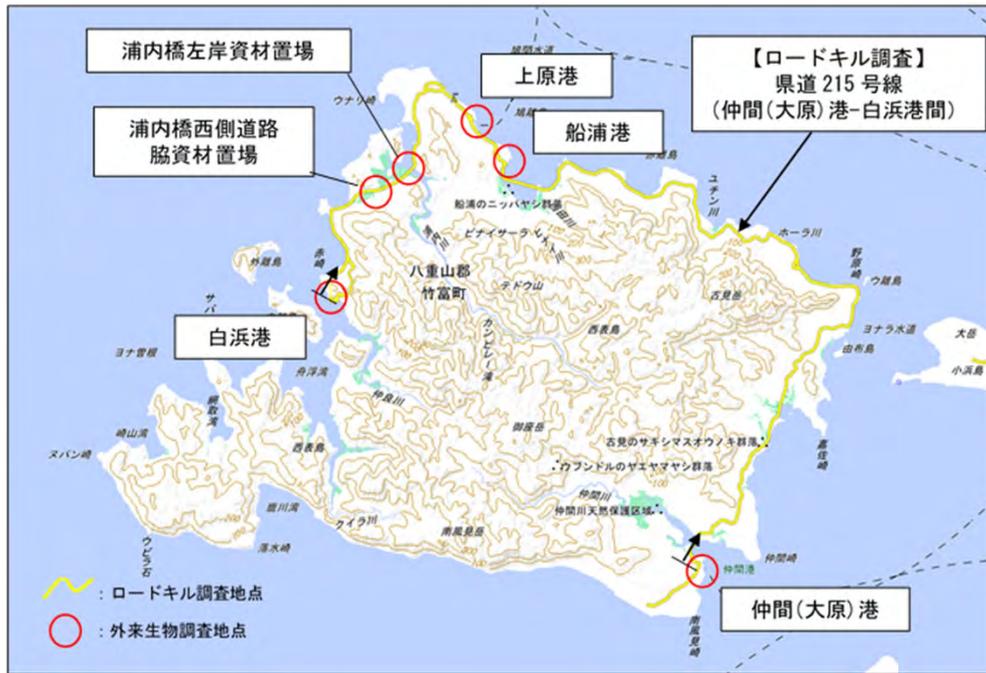
希少種保護の観点により、
移植地は表示していません。



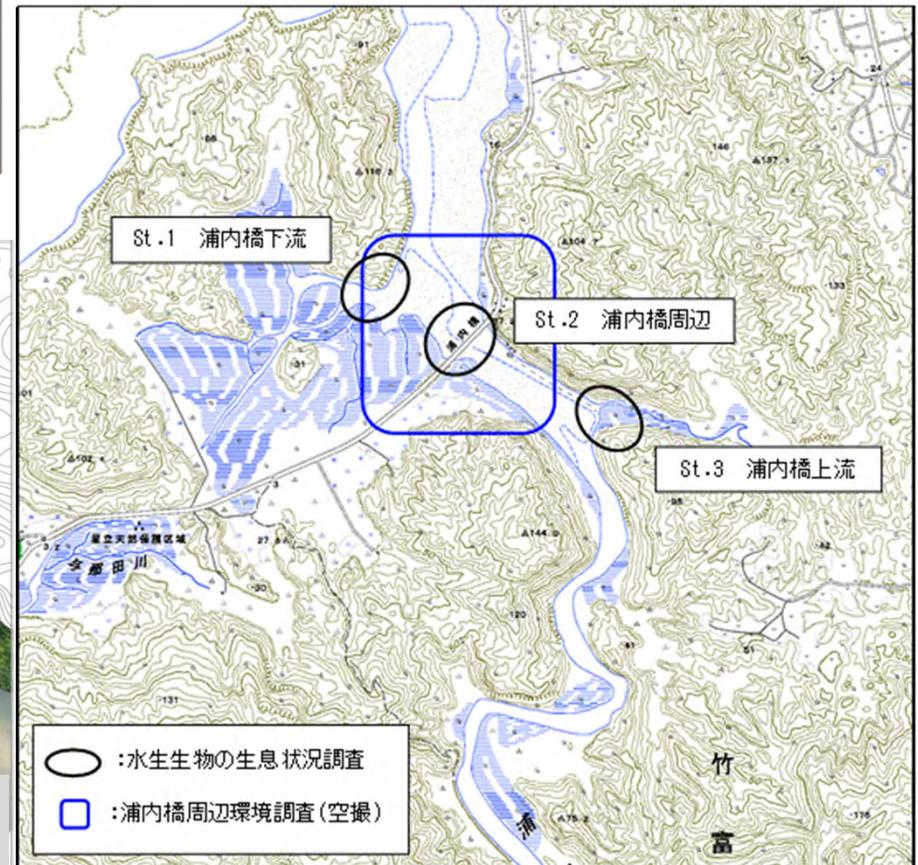
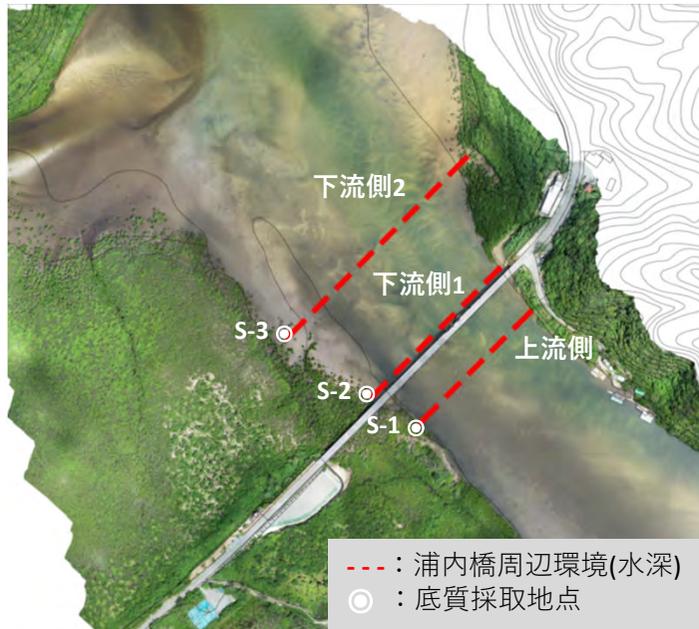
【凡例】 ■ 迂回路(築堤部)

項目	調査地点	
任意調査	● 定点調査(工事区域近傍)	○ 任意踏査(広域に探索)
ルートセンサス	— カンムリワシセンサスルート(約4km)	
	— 鳥類センサスルート(両岸 1km)	
定点調査	● 干潟鳥類定点調査(浦内橋上)	

陸上動物のモニタリング調査地点(1)



陸上動物のモニタリング調査地点(2)



水生生物のモニタリング調査地点

2 今後の工事計画(案)

2-1 全体計画及び進捗状況（工程表）

西暦		2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	2031	2032	
和暦(令和)		2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度	12年度	13年度	14年度	
年数		1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	13年目	
迂回路	計画	迂回路の新設													迂回路の撤去
	実施														
既設橋	計画					既設橋の撤去									
	実施														
新橋	計画							新橋の設置							
	実施														

備考1：予算措置の状況等により、工程は変更となる場合がある。

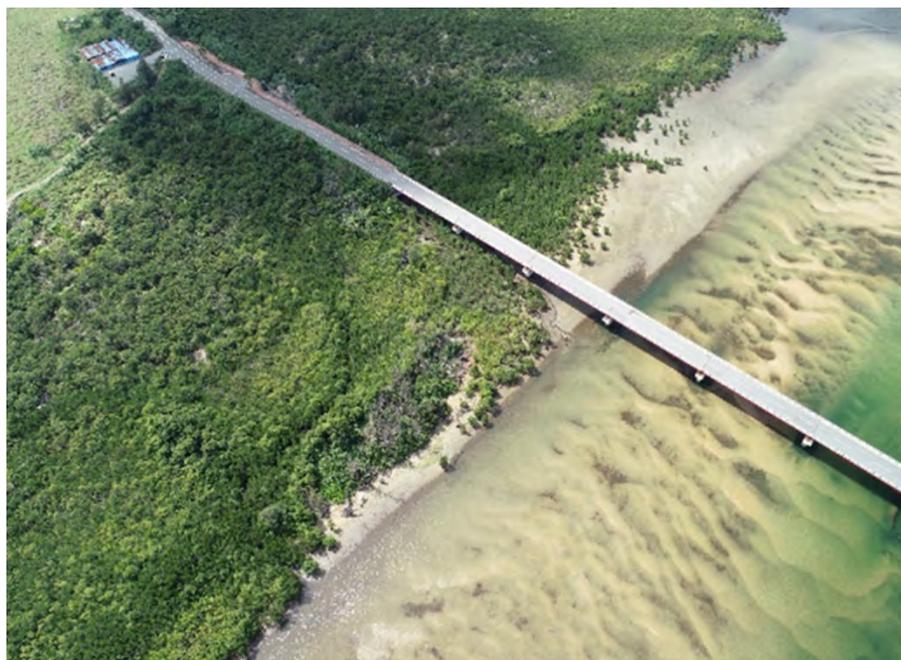
〳 2：迂回路の新設と既設橋の撤去は重複しない。

〳 3：迂回路の撤去と新橋の設置は重複しない。

2 今後の工事計画（案）

2-2 進捗状況（写真）

2020年撮影(施工前)



2 今後の工事計画（案）

2-2 進捗状況（写真）



2022年6月末撮影



2021年8月末撮影



2 今後の工事計画（案）

2-3 現況進捗状況（図面）

